

## 大学の世界展開力強化事業（令和元年度選定）中間評価結果

大学名	慶應義塾大学
整理番号	3
事業名	Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム（JEMARO）

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>B</b>	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
(コメント) <p>                     本国際共同修士課程プログラムは、EU 側 3 大学と単独では成立しない教育・研究体制を共同で構築し、各パートナー企業とも連携し、次世代高度ロボティクス技術者を育成するとともに実社会に人的・技術的リソースを還元することを目的としている。                 </p> <p>                     本国際共同修士課程プログラムは、日本が目指す Society 5.0 の実現に向けた技術革新、社会インフラの発展にも大きく貢献することが期待できる。また、EU では、2008 年より展開されてきたダブル・ディグリープログラムに慶應義塾大学が正式に参加する形で、交流事業は開始しており、令和 2 年度はオンラインではあるが各参加大学間で授業も提供され、参加学生数は限定的ではあるが学べる機会を好機と捉え、時差やコミュニケーションの障害を乗り越え積極的に取り組み、学修成果を確実にあげている。さらに、遠隔であっても学生間では国内外の学生による共同作業が多く盛り込まれていることから、海外の学生との友好関係も構築できており、ポスト・コロナ時代には現地留学が開始され、さらに高い留学効果が期待できる。                 </p> <p>                     一方で、この度の申請では国際共同教育、特にジョイント・ディグリー（以下 JD）プログラム実施に向けた挑戦的事業計画であることも評価されたが、事前調整が不十分であったことに加えコロナ禍の影響も重なり、当初計画の令和 3 年からの開始は実現できなかった。また、今後も JD プログラムの開始は、本事業期間中に実現できるかは極めて不透明な状況にある。加えて、プラットフォーム構築大学としての事業も、国内外の採択校との連携・情報交換等を行っているが、日本全体が望む JD プログラムを発展させるために国内外の政府・関係機関と連携し、先導的に制度改革や教育環境の整備に取り組む体制はまだ構築できていない。今後、国際的リーダーシップを発揮し、日本の JD プログラムの発展に貢献することが強く望まれる。                 </p> <p>                     最後に、今後も本事業終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進とともに、将来の我が国と相手国の大学間交流の更なる促進と発展に向け、プラットフォーム構築事務局として引き続き積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。                 </p>	